

1. 件名

追跡アンケート調査のデータ取得体系に関する調査

2. 背景・目的

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」という。）では、NEDO が実施した研究開発プロジェクトの開発成果が社会にもたらす効果・便益を把握することによって説明責任の向上を図るとともに、NEDO のプロジェクトマネジメントや企画立案機能の向上に資することを目的として、2004 年度以降、プロジェクト終了後に追跡調査・評価（追跡アンケート調査、インタビュー、ケーススタディ等）を実施してきた。

これまでのデータ取得においては、NEDO 特有のリスクの高い技術開発領域が持つ特徴・事象に関する知見に限られていたこと背景に、NEDO が実施するプロジェクトマネジメントの特有の要素やプロジェクト終了後の実用化までの実態を把握することに注力してきた。結果として、NEDO 内のガイドライン、NEDO 内の研修・勉強会等での用途を想定し、マネジメントにおける教訓の理解といった PDCA サイクルを主眼としたデータ活用がなされている。他方で、マネジメント手法における OODA ループ視点の重要性が近年議論される中、プロジェクト進捗に応じた逐次の軌道修正材料として、現状診断や確率的予測の結果を提供するようなデータ活用形態は、マネジメント手法の高度化に向けて検討の余地があると考えられる。

本調査では、追跡アンケート調査の設問設計や運用等のデータ取得体系を見直し、それらに紐づく分析・解析手法を整備することで、将来的な追跡アンケート調査の運用・設計の刷新に向けた試行的な取り組みを行うこととする。

3. 内容

3.1 データ活用施策の整理と企画立案

本項目では、データ活用施策の整理と企画立案に向けた情報の整理と資料の作成を行う。また、作業においては NEDO からデータを提供し、必要に応じて NEDO 内の担当者および外部有識者等へヒアリングを実施する。

- 本企画の立案において、NEDO から提供する 2024 年度の委託調査でまとめた回答の統合データを基に、現状の追跡アンケート調査に関する運用や回答データをレビューすることで、アンケート活用の現状と利活用ニーズを踏まえたデータ活用方針を整理する。
- 本企画の立案において、前項のレビューを含め、関係者の理解を促すため、以下の視点を参考に NEDO の技術開発プロジェクトのマネジメントに係る多様な情報の関係性や時系列などの位置づけを整理し、データ利活用のコンセプトを設定すること。
 - ✓ 技術開発プロジェクトの時系列イベントの全体像と NEDO の対象領域
 - ✓ 技術開発分野・領域、プレイヤーの特徴
 - ✓ プロジェクト実施者の属性情報（業界・業種、企業規模、財務情報等）

- ✓ プロジェクト設計のオプションとマネジメント施策の種類
 - ✓ 研究開発～実用化段階における取得情報 など
- 前項で検討したコンセプトの具体化とデータ活用方針の詳細化に向け、以下の視点を参考に、追跡アンケート調査の設問設計と運用の刷新を見越したデータ取得～分析の実務とデータ活用までのサイクルを構造化したデータ活用施策のドラフト案を作成する。
 - ✓ データ活用方針の実現に向けた要素の特定
 - ✓ NEDO が保有するデータの状況等のマッピング
 - ✓ 現状の追跡アンケート調査の運用・範囲の俯瞰（過不足や修正・補完すべき領域の特定）
 - ✓ データ活用方針に対する適用可能性のある数理モデルや可視化手法の検討
 - ✓ データ利活用のユースケースの提示 など

3.2 追跡アンケート調査の設問設計

本項目では、前項の「データ活用施策の整理と企画立案」を受け、追跡アンケート調査の設問設計を行うことで調査票案を作成する。作業においては NEDO からデータを提供し、必要に応じて NEDO 内の担当者へヒアリングを実施する。

- NEDO から提供する現行のアンケート調査票の設問一覧をレビューし、従来のアンケート調査票との相違点・改善点を確認し、従来設計の思想から新規設計への変更点を資料にまとめること。
- データ活用施策のドラフト案を基に 2026 年度に実施する追跡アンケート調査（2026 年 8 月～9 月に配信予定）で使用するアンケート設問を検討し、新規の調査票を詳細設計すること。
- アンケート調査票の設計においては、管理側の運営やデータ分析視点のみならず、回答者側の負担も考慮し、バランスが取れた設問設計を行うこと。
- 外部有識者等から回答者の視点に立ったコメントもしくは模擬回答を取得し、新規に設計するアンケート調査票へフィードバックする。

3.3 データ取得後の運用スキームの検証について

本項目では、作成した追跡アンケート調査の設問や調査票案を基にこれまでの検討内容のレビューを行う。必要に応じて NEDO 内の担当者および外部有識者等へヒアリングを実施する。

- 設計したアンケート設問から得られる回答についてテストデータを用いた検証を行い、データ取得～分析の実務とデータ活用まで一連の作業が円滑に実現できるかをレビューする。
- レビューの結果、データ活用方針の狙いが満たされるのかなどの観点で設問やモデルを修正すること。
- データ活用方針を踏まえ、管理部門・プロジェクト推進部門のユーザー視点を考慮した技術開発マネジメントへのフィードバックや階層的なデータ可視化など組織内のデータ活用の運用定着イメージを提案し、運用の点検周期を含めた継続的に運用可能な分析スキームを示すこと。

3.4 次年度以降の対応方針と検討課題について

本項目では、本調査の結果および次年度以降の対応について取りまとめる。必要に応じて NEDO 内の担当者および外部有識者等へヒアリングを実施する。

- 前項までの検討の結果を踏まえたフィードバックとして、当初作成した企画のコンセプト資料、ドラフト案、追跡アンケートの設問・調査票をリバイズし、NEDO が 2026 年度実施する追跡アンケート調査の回答データ取得後の作業方針を含め資料にまとめること。
- 本調査で解消できなかった課題と解決方針を提示するとともに、追跡アンケート調査の運用や情報取得体系の拡張やデータ駆動型の管理の実装によってマネジメント手法が高度化できる余地が考えられる場合には、次年度以降の対応方針としてまとめること。

3.5 有識者会議の設置と進捗報告について

- 事業期間中に、進捗状況の報告と対応方針について外部有識者を交えた議論の機会を設けること（開催方式を含め NEDO と協議の上決定する）

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2026 年 3 月 31 日まで

5. 予算規模

総額 4000 万円以内

6. 報告書

提出期限：2026 年 3 月 31 日

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

7. 報告会等の開催

- ・ 進捗の報告：調査の進捗状況は、NEDO との定例会議として 1～2 回/月程度とする。
- ・ 報告会等の開催：委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

8. その他

- ・ NEDO から提供するデータのうち、電子媒体等に格納して提供するものについては、調査完了日までに NEDO に返却すること。また、提供データを保存したパソコン内から本調査内で作成したデータを含めて、全て削除し NEDO へ報告すること。
- ・ 本仕様書に定めなき事項については、NEDO と実施事業者が協議の上で決定するものとする。